

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸あん摩マッサージ指圧科昼間部) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自然科学A (人体の構造)	人体の構造について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			自然科学B (健康と栄養)	栄養とは何か、その意義について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			自然科学C (人体の機能)	人体の機能について学ぶ。	1通	20	1	○			○			○	
○			自然科学D (保健体育)	身体の仕組みを総合的に理解して、運動、食生活、生活習慣病などから健康の成り立ちを学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会科学 (心理・倫理)	人間の心という主観の世界を臨床心理学を通して学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			人文科学Ⅰ (外国語)	医療面接において患者と英語で対応できるように学習する。	1通	20	1	○			○			○	
○			自然科学E (薬理学基礎)	漢方医学の基本的知識、代表的な漢方方剤の適応、使用目標などを理解する。	2前	40	2	○			○			○	
○			人文科学Ⅱ (古典)	東洋医学を学ぶ上で必要な中国の歴史・文化、諸思想を学習する。	2後	40	2	○			○			○	
○			解剖学A	人体の構造と機能を理解するために組織、骨、筋などを学習する。	1通	80	4	○			○		○		
○			解剖学B	人体の構造と機能を理解するために内臓系、神経系、感覚器官などを学習する。	1通	80	4	○			○		○	○	

○		生理学A	人体の構造と機能を理解するために生物が示す生命現象の機序を学習する。	1通	80	4	○			○	○		
○		生理学B	人体の構造と機能を理解するために生物が示す生命現象の機序を学習する。	1通	80	4	○			○	○		
○		病理学概論	疾病（病気）を理解するために病因や病変などを学習する。	2後	40	2	○			○	○		
○		臨床医学総論	病態把握において必要な診察法・検査法を学習する。	2後	40	2	○			○	○		
○		臨床医学各論A	諸疾患について、成因、病態生理、症状などを学習する。	2通	80	4	○			○	○		
○		臨床医学各論B	諸疾患について、成因、病態生理、症状などを学習する。	2前	40	2	○			○	○		
○		リハビリテーション医学Ⅱ	リハビリテーションに必要な種々の検査・評価について学ぶ。	2後	20	1	○	△		○	○		
○		リハビリテーション医学Ⅲ	諸疾患におけるリハビリテーションを学習する。	3前	40	2	○			○	○		
○		衛生学・公衆衛生学	健康に影響を与えるさまざまな要因をふまえて、健康の保持（維持）・増進の方法を学習する。	3後	40	2	○			○	○		
○		医療概論	日本・中国・西洋の医学の歴史と鍼灸医学の歴史について学習する。	1前	40	2	○			○		○	
○		関係法規	あはき師関係法規に関する臨床家として必要な知識の総合復習を行う。	3前	20	1	○			○	○		
○		あん摩マッサージ指圧理論	適切なあん摩マッサージ指圧の施術をおこなえる能力を身に付けるために、理論を学習する。	1前	20	1	○			○		○	
○		はりきゅう理論	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、理論を学習する。	2前	40	2	○			○	○		

○		東洋医学概論 I	東洋医学の基礎理論、東洋医学の人体の考え方、疾病観、診断、治療の基礎的な知識を学ぶ。	1通	80	4	○			○	○		
○		経絡経穴概論 I	鍼灸の基本である経絡経穴の概要と十四経絡をすべて学ぶ。	1通	80	4	○			○	○		
○		経絡経穴概論 II	経絡経穴の概要について理解を深め、正しく取穴できるようにする。	2前	40	2	○			○	○	○	
○		東洋医学臨床論 II-A	西洋医学と東洋医学の両面から、病証の診断法、鑑別法、治療法を学習する。	2前	40	2	○			○	○		
○		東洋医学臨床論 II-B	あん摩マッサージ指圧、鍼灸治療の適否の判断ができるように学習する。	2後	40	2	○			○	○		
○		東洋医学臨床論 III	西洋医学と東洋医学の両面から、病証の診断法、鑑別法、治療法を学習する。	3前	40	2	○			○	○		
○		臨床あはき学 II	東洋医学的診察・診断法、治療法、養生法についての基礎知識を学ぶ。経絡経穴の基礎知識、取穴について学ぶ。	2通	##	6	○			○	○	○	
○		臨床あはき学 III-A	生体観察について学ぶ。	3前	40	2	○		△	○	○		
○		臨床あはき学 III-B	疾病の成り立ちの知識を身に付ける。	3後	40	2	○			○	○		
○		地域理療学・理療経営学	医療・福祉・社会の現状と課題を理解し、その状況の中で、あはき師として社会に貢献するためにはいかにあるべきかを考える。	3後	40	2	○			○	○	○	
○		あん摩マッサージ指圧実技基礎	適切なあん摩マッサージ指圧の施術をおこなえる能力を身に付けるために、あん摩施術、マッサージ施術、指圧施術の基礎を修得する。	1通	60	2				○	○		○
○		あん摩マッサージ指圧実技 II	適切なあん摩マッサージ指圧の施術をおこなえる能力を身に付けるために、あん摩施術、マッサージ施術、指圧施術の応用を修得する	2通	80	2				○	○	○	○
○		あん摩マッサージ指圧実技 III	様々な臨床や社会的ニーズに対応できるあん摩マッサージ指圧の施術をおこなえる能力を身に付ける。	3通	80	2				○	○	○	

○		はりきゅう実技 I A-1	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の基礎を学習する。	1 通	80	2				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 I A-2	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の基礎を修得する。	1 通	80	2				○	○		○	
○		はりきゅう実技 I A-3	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の基礎を学習する。	1 後	40	2				○	○		○	
○		はりきゅう実技 II A-1	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の応用を修得する。	2 前	30	1				○	○		○	
○		はりきゅう実技 II A-2	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の応用を修得する。	2 通	30	1				○	○		○	
○		はりきゅう実技 II A-3	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の応用を修得する。	2 前	40	1				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 II A-4	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の応用を修得する。	2 後	30	1				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 II A-5	適切なはり・きゅうの施術をおこなえる能力を身に付けるために、はり術、きゅう術の応用を修得する。	2 通	80	2				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 III A-1	様々な臨床や社会的ニーズに対応できるはりきゅうの施術をおこなえる能力を身に付ける。	3 前	40	1				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 III A-2	様々な臨床や社会的ニーズに対応できるはりきゅうの施術をおこなえる能力を身に付ける。	3 後	30	1				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 III A-3	様々な臨床や社会的ニーズに対応できるはりきゅうの施術をおこなえる能力を身に付ける。	3 通	80	2				○	○		○	○
○		はりきゅう実技 III A-4	様々な臨床や社会的ニーズに対応できるはりきゅうの施術をおこなえる能力を身に付ける。	3 通	80	2				○	○		○	
○		臨床実習 II	教員の指導の下、主に附属臨床施設・実習室において、様々な臨床や社会的ニーズに対応できる適切なあはき施術を行うために必要な臨床能力を身に付ける。	2 通	90	2				○	○		○	

○		臨床実習Ⅲ	教員の指導の下、主に附属臨床施設・実習室において、様々な臨床や社会的ニーズに対応できる適切なあはき施術を行うために必要な臨床能力を身に付ける。	3通	90	2				○	○	○			
○		総合応用A	人体の構造や機能に関する臨床に必要な知識の総合復習を行う。	3通	20	1	○			○		○			
○		総合応用B	人体の構造や機能に関する臨床に必要な知識の総合復習を行う。	3前	40	2	○			○		○			
○		総合応用C	臨床医学系教科における臨床に必要な知識の総合復習を行う。	3後	40	2	○			○		○			
○		総合応用D	臨床医学系教科における臨床に必要な知識の総合復習を行う。	3前	40	2	○			○		○			
○		総合応用E	東洋医学系教科における臨床に必要な知識の総合復習を行う。	3後	40	2	○			○		○			
○		手技学総合実技	手技に関する幅広い教養を身につける。	3通	80	2				○	○				○
合計				科目	2860単位時間(118単位)										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全ての必修の単位を取得したのについて卒業を認める。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				40週				
(留意事項)															
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合															
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。															